

妊娠期～出産後における女性の心理的変化と心理的サポート

—女子大学生および母親の妊娠・出産イメージと母子画：

働く母親への半構造化面接—

Psychological process of women during pregnancy and shortly after childbirth
and psychological support to them

—Images of pregnancy and childbirth and mother and child drawings of female college students and
mothers : semi-structured interviews with working mothers—

神沢 美波

Minami Kamizawa

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 臨床心理学専攻 修士課程

キーワード：妊娠出産イメージ，働く母親，心理的サポート，母子画，複線経路・等至性モデル(TEM)

Key words : Images of pregnancy and childbirth, Working mother, Psychological support,
Mother and child drawings, Trajectory equifinality model

1. 問題と目的

妊娠期～出産後は心身ともにリスクの高い時期であり，女性への心理的サポートは不可欠である(永田, 2011)．特に働く女性にとっては待機児童等の問題もあり，妊娠出産にまつわる困難が多い状況である．そこで本研究では，妊娠出産についてのイメージと妊娠期～出産後の女性の心理的変化を明らかにし，妊娠期～出産後の働く女性の心理的サポートを導き出すことを目的に2つの研究を行う．今回は母子へのイメージを把握するために，本人も意識していない母子に対するイメージが表現される母子画(Gillespie1994)を用いる．

2. 研究1

目的：女子大学生と出産経験者の間で妊娠・出産に関するイメージにどのような差があるか自由記述と母子画，尺度を用いて明らかにする．

方法：

- ・対象者：女子大学生 97 名，出産経験者 76 名
- ・調査内容：妊娠・出産へのイメージと必要なサポートについての自由記述，母子画，対児感情尺度改訂版を実施

結果と考察：

1) 妊娠・出産と必要なサポートへのイメージ

妊娠・出産と，必要なサポートについての自由記述を KJ 法により分析した．出産経験者は女子大

学生に比べてより豊かな妊娠・出産イメージを持っていた．また，出産経験者が必要と考える「孤独にさせない」「母親が社会の風潮に縛られない」サポートについての記述は女子大学生にはほとんど見られず，出産経験者と女子大学生間で認識に差がある事が分かった．出産経験者の求める心理的サポートの多くは周囲の人物から受けるものであり，妊娠期～出産後についての心理教育を妊婦・母親以外にも行う必要性が示唆された．

2) 母子画

馬場(2005)の基準に従い母子画得点を算出した．また，母子画得点ではとらえきれない描画全体の統合度を筆者らが独自に「絵として，違和感なく全体がまとまり，温かみがあり，生き生きした印象を受ける絵」と定義し統合度得点(1～5点)を算出した．母子画の統合度の高低の典型例を図1～4に示す．平均値の差をみると，出産経験者の方が女子大学生と比べて統合度の高い母子画を描き($t(169)=5.67, p<.001$)，母親像のサイズ($t(169)=2.99, p<.01$)と子ども像のサイズ($t(167)=5.28, p<.01$)が大きかった．また，母子画では一般的に母子が1対1で描かれるが(馬場, 2005)，出産経験者の3割は子ども像を複数描いており，子育て中の母親は母子関係を強く意識するため，自分と子ども実際の姿を描く場合があると考えられよう．

3) 対児感情尺度改訂版

対児感情尺度の平均の差をみると、出産経験者の方が女子大学生より赤ちゃんへの肯定的感情が高かった ($t(128.1)=3.23, p<.01$)。また、対児感情尺度と母子画の統合度について相関分析を行った結果、統合度の高い母子画を描く者は、赤ちゃんへの肯定的感情が高いことが明らかになった ($r=.230, p<.01$)。

3. 研究 2

目的：働く女性の妊娠期～出産後の心理的プロセスを半構造化面接、母子画により把握し、心理的サポートについて検討する。

方法：

- ・対象者：子育て中の働く母親 3 名
- ・調査内容：半構造化面接、母子画、対児感情尺度改訂版を実施した。

結果と考察：

1) 半構造化面接

子育て中の働く母親 3 名に半構造化面接を 3 回実施し、TEM (複線経路・等至性モデル Trajectory Equifinality Model) (安田・サトウ, 2012) により分析し作成した TEM 図を提示してフィードバックした。TEM 図を用いて 3 回面接を行ったことにより、妊娠～出産後の出来事や気持ちへの振り返りが生じ、より深く理解することにつながった。

その結果、妊娠判明～出産期には、子どものエコー写真を見たり胎動を感じ、周囲から妊婦として接される体験をして「妊娠を受け入れ」「子どもの存在を実感」していた。出産時には、妊娠期からイメージを膨らませていた赤ちゃんと実際に対面してその存在を実感し「赤ちゃんとの出会い」「母親となる実感」が起こっていた。出産後、子育てが大変な一方、子どもの成長に大きな喜びを感じており、子どもを通してポジティブ、ネガティブの両感情を強く抱いていた。復職時には、一緒に過ごせた育休期間の振り返りが生じ、「子どもの成長を感じる」「子育ての振り返り」が起こっていた。心理的サポートとして、ネガティブな感情の受け止めに加え、子どもの成長などポジティブな側面を評価することが重要だと考えられた。



図 1 出産経験者 統合度 5.0

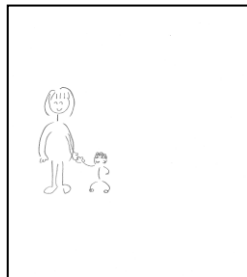


図 2 出産経験者 統合度 3.3



図 3 女子大学生 統合度 4.7

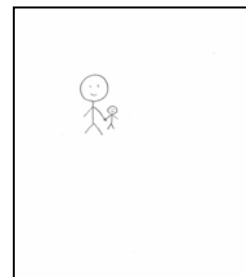


図 4 女子大学生 統合度 2.3

2) 母子画

協力者 2 名は実際の自分と子どもを描き、2 回目以降の絵で母子像が大きくなった。また、他の 1 名は自分以外の母子をイメージして描いたが回を追うごとに子ども像が大きくなり、母親像の腕もしっかり子どもに回される絵へと変化した。面接で妊娠～出産後の振り返りが起こり、母子関係が強く意識された結果だといえよう。

4. 全体考察 研究 1・研究 2 を通して

女性は子育ての中でポジティブな感情とネガティブな感情両方を強く抱いており、妊娠・出産・子育ての中でそのイメージが徐々に深まり豊かになると考えられる。女子大学生と出産経験者のもつイメージの豊かさに差があることから、妊娠・出産は、未経験の女性が想像するよりも実際には情緒が大きく揺さぶられる体験だといえよう。妊娠～出産後の情緒的体験について心理教育を行うことが出産未経験者へのサポートとなるであろう。また、広く一般に妊娠～出産後についての知識が広がることで、妊娠期～出産後の女性が求める周囲からの理解や支援につながるであろう。

5. 今後の課題

心理的変化の重要点や必要なサポートについて、焦点を絞った研究や、妊娠～出産後についての心理教育の実践に向けた研究が必要であろう。

付記

本研究は、大妻女子大学人間文化研究所大学院生研究助成 DB2911 「妊娠期～出産後における女性の心理的変化と心理的サポートについて」を受けて行ったものである。

6. 文献

- [1]馬場史津 (2005) 母子画の基礎的・臨床的研究 北大路書店
- [2]Gillespie, J. (1994) The Projective Use of Mother and Child Drawings: A manual for clinicians. New York: Brunner/Mazel.
- [3]下恵美子・石川 元 (訳) (2001) 母子画の臨床応用—対象関係論と自己心理学 金剛出版
- [4]永田雅子 (2011) 周産期のこころのケア 遠見書房
- [5]安田裕子・サトウタツヤ (編) (2012). TEM でわかる人生の経路 誠信書房